

2024.03.08.



一般社団法人健都共創推進機構 主催

第4回

健都共創フォーラム

第3部

創出した共創成果を拠点から展開・発信する方策

パネルディスカッション

- 志水武史氏・廣常啓一氏・十河基文氏・玉木彰氏
- 武野團氏・杉原宏和氏 <<※ 本日まで登壇順>>
- 菱山豊 (一般社団法人健都共創推進機構 代表理事)



共催：国立研究開発法人国立循環器病研究センター

大阪府 吹田市 摂津市 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所

後援：公益財団法人吹田市健康づくり推進事業団 公益財団法人大阪産業局

=====

【第1部】 & 【第2部】 でのご発表内容の活動において

- A 成果を広く発信するにあたって感じた課題は？
- B 成果発信にあたって効果的だった支援は？
- C 成果形成から関西域、さらには、日本国内～海外・世界への展開・発信方策についてのお考えは？
また、その際に、希望されます支援や後押しがあれば

- D “北大阪健康医療都市（健都）”ブランド化/高揚方策についてのご意見

=====

A 成果を広く発信するにあたって感じた課題



PR Times等のニュース配信サービスを活用することで、一定の効果
反面、新聞/雑誌/TV等の個別取材の機会はほとんどなく、情報発信手法を再考する必要
(製品未発売なのでやむを得ない面も)
首都圏のスタートアップやIT系ベンチャーと比較すると、どうしても露出機会が少ない
SNS等活用も積極的に行いたい、PV獲得のためには更新頻度を高める必要、人手が足りない

近畿バイオインダストリー振興会議様に事務局を担って頂き、毛細血管ラボ社会実装コンソーシアムを立上げ
企業の方々とのコミュニケーションは少しずつ進んでいる感じはあるものの、スピード感が出ないという課題感が

医療やヘルスケアに限定しない多種多様な研究領域や事業領域の方々に、健都での共創活動が関係することを理解していただくための情報発信が、これまでにないイノベーションや領域を拡大することになる

共創成果を創出するフェーズに注力、成果発信については基本的には大学HP等での発信のみ。
成果発信は基本的に成果の主体である企業（ベンチャー）あるいは成果発信を主たる役割とする機関・団体等に任せるスタンス（このため、現状では大学側で特に課題を認識していない）

B 成果発信にあたって効果的だった支援



ニュース配信サイト等のスタートアップ向け低価格パッケージは、資金力のない当社にとってありがたい

大学との共同研究成果として、爪床毛細血管（NC）の測定データが、糖尿病網膜症（DR）の存在および重症度に関与することを明らかにしたという内容で論文化とプレスリリース共同通信社に取り上げてもらえた事で、地方紙も含めて多くの媒体に掲載

技術起点、課題起点からの共創は、結びつきやすいが、ビジネスモデルなどに欠落することが多く、また商流の一部、特に川上工程に偏るため、事業起点のアイデアやプレイヤーを含めた共創にすること、また川下側の連携方法や主体を含めることが効果的
リビングラボなどに於いても住民側の持つ健康医療に関する課題起点や、共創のための対話や理解増進、合意形成などの方法も組み合わせる必要

基本的に当事者であるベンチャー企業等が成果発信効果的であった支援等の内容は把握していない

C 成果形成から関西域、日本国内～海外・世界への展開・発信方策 希望する支援や後押し



まずは成果（製品上市）を達成することが最重要項目

その上で、国内外での各種ピッチコンテストや展示会等で露出を高めると共に、SNS等を活用して発信力を強化

希望する支援策：

- ①海外VCも対象としたピッチコンテストの開催（頻度向上）
- ②国内外展示会へのブース出展支援（J-StartupKANSAIブースや吹田市ブースでの出展など）、新聞/雑誌/TV等のマスコミとの交流機会の創出 など（すでに一部は実施されていると認識）

内閣府のバイオ戦略2020にあるグローバルバイオコミュニティの形成の為のコンテンツとして毛細血管脆弱性指標の価値を向上させていきたい

毛細血管はまさに循環器の一部として全身の部位に張り巡らされており、国立循環病研究センターや医薬基盤・健康・栄養研究所と一緒に万博などで日本国内～海外・世界への展開・発信を

グローバルヘルスイニシアティブというプラットフォームを形成中であり、活用いただきたい
特に途上国支援や災害や戦乱の復興と合せる事も重要

リビングラボ地域として、上記に地域住民などが加われると仕組みも必要

成果形成には、異なる主体、技術、事業アイデア等の連携が不可欠

そうした異なる要素が連携する場や仕組みを構築することが重要

海外展開には成果主体である事業者に対するマインドセット、海外VCとの連携が重要

そうした支援があると良い

D “北大阪健康医療都市（健都）”ブランド化/高揚方策



心疾患は日本国内での死亡原因第2位、世界では1位であり、グローバルな高齢化に伴って今後ますます予防/早期治療/疾病コントロールが重要な疾患
日本国内ではがん治療に注目が集まりがちであるが、心・循環器系専門病院で世界14位（アジア1位）の国立循環器病研究センター（+大阪大学病院）を中核に、心・循環器系疾患についての情報をより強力に発信していく必要性
建都のポータルサイトを拝見すると、非常にきれいにまとまっているものの、やや特色が薄いスーパー玉出のチラシのように、大阪風にコテコテで行ってもいいのでは・・・

高齢化社会における自助・共助による健康維持向上できる街づくり施策に毛細血管指標を活用頂きたい
自治体内部（健康づくり課・保健センター・健診など）で活用検討

研究の共創だけでない、共創の成果を整理し、更に社会提言などの情報発信を行うこともブランド化に結び付く
リビングラボの為に必要なソーシャルコミュニケーション、ソーシャルマーケティングなどの組合せ

国循を中心とする研究機関や関連企業等における技術・研究シーズの活用、および関係者間の適切な連携が重要